平成２７年度 第２回 宗像市次世代育成支援対策審議会

議事録（要点筆記）

期　日：平成２８年２月２３日（火）
時　間：午後６時３０分から午後８時３０分
会　場：宗像市役所　本館３階第２委員会室

◇出席者

審議会委員					
横山　正幸	○	石山　さゆり	○	小方　信二	―
衛藤　蔦子	○	梅田　ひろみ	○	炭谷　一毅	○
吉永　敦子	○	高杉　洋史	○	薄　俊哉	○
釜瀬　計	○	今西　美樹	―	高畑　真希子	○

事務局				
清水　比呂之	中野　万由美	薄　伸也	久保　謙司	中村　修
秦　康典	早川　靖彦	瀧口 啓太郎	賀耒　悦雄	

◇配布資料：

１　第５章　計画の内容　実施事業の追加・変更
２　第６章　教育・保育給付事業の量の見込みに対する確保方策の変更
３　別表（本計画書ｐ84）　カテゴリー表の変更分
４　「宗像市子ども基本条例　―ハンドブック―」（冊子）
５　平成 27 年度第１回宗像市次世代育成支援対策審議会 議事録

◇会議内容：

１　挨拶
２　確認事項
・前回議事録の確認　　⇒　承認された。
３　報告事項
●「宗像市子ども基本条例　―ハンドブック―」の作成
（事務局から概要説明）
（質疑応答）

・ハンドブックはわかりやすく、たいへん良くできている。宗像市子ども基本条例の説明に関して、何か要望等がでているか？

→日の里地区の３校から夏休みの研修として要請があり、実施した。

・基本条例の啓発に基づいて、ハンドブックを作成、その中で広報に掲載した記事も取り入れている。
・全国的にも条例制定している自治体は少ないし、ハンドブックの作成は珍しい取り組みと思う。資料を探していた際に同じようなものが滋賀県であったが、それは冊子ではなくパワーポイントを使用して作成したものだった。
・学校や幼稚園から説明会等要請があった場合、大いに参考になると思う。
・支援サービスや最善の利益について考慮されている。何が最善の利益か、条例だけではわかりにくいが、ハンドブックがあればわかりやすい。

・内容としてはバージョンアップしているのではないか。これを活用することを考えた場合、学生に宗像市の取り組み内容とかを教える際には教材となると思う。
・いろいろな場で活用してほしい。作成部数は、どれくらいか？
・３００部作成した。関係機関に配布して、残りは５０部くらいである。
なお、公式ホームページから pdf データをダウンロードすることも可能であるので、利用願いたい。
・啓発用にパンフレットも大人向けと子ども向けがあり、さらにハンドブック、とバージョンアップしている。

４　審議事項

●宗像市子ども・子育て支援事業計画の実施事業について
（事務局から追加する６事業について概要説明）
（質疑応答・意見）

＜＜放課後子ども総合プラン事業＞＞
・放課後子ども総合プランの関係で、日の里地区で計画がある旨、民生委員に話しがあったが、５月から実施するとのことだった。青少年育成会がコミュニティと連携し、大学生が支援する“ひだまりプロジェクト”だが、何か市から話しがあったのか？
→日の里地区の取り組みであり、民生委員がどのように関わるかどうかについては、市から何とも言えない。
・東郷駅前で開始予定である“Ｅステーション”との関連は？
→市としては、これら日の里地区コミュニティにおける取り組みとして、位置づけをしている事業である。
・そうした場合、活動での中心となるのは？
→コミュニティ協議会の会長・事務局長が窓口となると思う。
・青少年育成会が中心となって進めていると思う。習い事や塾、子どもが忙しすぎて遊べない状況である。放課後をどうすごすか、どう確保してあげるか？寺子屋事業に取り組む場合は大人の覚悟が必要だ。人的確保・安全確保・施設の確保が必要である。
・放課後子ども総合プラン事業は、玄海では“にじいろ教室”を学校と連携してコミセンで実施している。教育大の学生ボランティアが、学習指導している。土曜日授業でも参加してもらっている。学校支援ボランティア事業があるが、交通の便の良し悪しなど課題がある。人材育成、人材バンクも必要ではないか？玄海地区は、近所に遊ぶ子が少ない。公民館が良いと思うのだが、難しい。コミュニティセンターをいかに利用するか？
・放課後子ども総合プランの事業概要の文中に、句点があればわかりやすい。
・公園の中でも見守ってくれる大人がいるといった安心・安全がほしい。

＜＜世界遺産学習推進事業＞＞
・世界遺産だけではなく、宗像市全体に存在する、例えば赤間の通りとか山田地蔵尊とかも取り入れると良い。宗像市の子どもが郷土を誇りに思う事を学ぶことができる。
→それは取組みに入れた方が良いと思う。
・世界遺産に関しては、意識の差というか地域での格差が大きいと思う。総合的に進めていく必要があると思う。

＜＜無料職業紹介所＞＞
・ネーミングを工夫してほしい。看護師であれば、ナースバンクと言うので、「保育士バンク」などはどうか？
・無料職業紹介所の内容は？
→内容としては人材バンク的なもので、新卒者の確保のために実施する。
・人材確保は難しい。

＜＜生活困窮者自立支援事務＞＞
・児童相談でも経済的な問題から家庭の問題となっている。困窮状態で家計が苦しい場合が多いが、地域での支援を行う事で、本人へのしわ寄せがなくなればけっこうである。生活困窮者自立支援事務の取組みは、良いと思う。
・虐待などあっている。経済的な原因で子どもなど弱い方へ向かっている。

＜＜赤ちゃんの駅＞＞
・保護者の傾向が変わった。デリケートな部分が強くなっている。ミルク用のお湯なども安全性の表示が必要かもしれない。そういったことまでクリアする手続きも必要だろう。でなければ、運営上課題が生ずることもある。
→ミルク用のお湯は厚生労働省から厳しい基準があり、実施する事業所に理解してもらっている。どのサービスが可能であるかを検討していただく。
・赤ちゃんの駅のマークは、何か統一的なデザインがあるのか？
→これは元々北九州市がデザインしたものであり、これを全国的な取り組みにしたいとのことで、宗像市もそのデザインを採用した。
・取組みの発端は？
→１２月議会で市議会議員から提案があって、北九州市における取り組みについて話しが出たものである。なお、テントについては、企業からの寄贈というかたちで準備するといった方向で検討している。
・施設の安全性については、多少課題があるように思う。ベッドや水質等の衛生面といった観点からの課題。
また、授乳時の母親が無防備な姿になってしまわないような対策を考慮する必要があるのではないか？

・赤ちゃんの駅は、実施する事業所にも何かメリットを打ち出すと良いと思う。
→市で発行する「ママパパ応援ブック」に事業所を掲載する予定である。
・ガイドラインの内容は？
→駅の要件が揃った段階で登録する。県の事業でも行っている。
・県の子育て応援宣言事業では、
・“貸出用授乳テント”については、ネーミングを工夫してほしい。
・“貸出用授乳テント”とは？
→屋外でのイベント開催時にテントを設営し、授乳等の対応ができるようにするものである。
・テントは購入するのか？
→民間から寄贈してほしい旨、他の部署から呼びかけをしている。
・これらの事業により子育て中の保護者が、子どもを施設に預けて、ゆっくりと買い物ができるくらいの地域社会を実現できれば、なお良いと思う。

＜＜田熊石畑遺跡管理運営事業＞＞
特になし

・では、それぞれの事業についての位置づけについては、どうか？
→（特になし）
⇒新規事業についての事業概要及び施策カテゴリーについては、事務局提案のとおりとする。

●子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策について
（事務局から概要説明）
・福岡市の人口が増えて周辺市町にも影響がありそうだ。増える方向で今後、考慮する必要があるのでは？
・増えた場合は、変更が必要だ。
⇒この案件については、事務局提案のとおりとする。

＜＜今後の展望等意見＞＞
・職業紹介所について、若いうちに離職した人が復職する場合、再教育が必要だと思う。保育士の質の維持する対策が必要だと思うが市は何かあるのか？
→検討する。
・相談業務など市や関係機関と連携していかなければならないと思う。
・福岡市の人口が増えている。宗像市は増えてほしいと思うが、若い世代が入って来ているが、ギャップがある。
・若い世代のボランティアがいても続かない。拡げる手段はないのか。やる気があっても人数が少ないため、そのしわ寄せを受け、負担が増えている。悪循環となっている。環境づくりも必要である。

・見守りの人が子どもにあいさつすると、子どもから返事はあってもその保護者からはない。コミュニケーションがうまくいかない人は、過去に経験がなく、どういう風に接してよいかわからない。そういう中で育っていると思う。
・声掛けは必要なことである。
・社会情勢に対応し、当審議会で宗像市も計画づくりをしているが、将来を見据える担当部署が３～５年後の社会についても勉強することも必要ではないか。
・自信のない保護者が増えていると感ずる。手段がなく、知識は持っているが、何を選択すれば良いかわからない。審議会で検討された内容は、現場にフィードバックしていきたい。
・現在は子どもより、その家庭が心配である。生活困窮者や親が子どもを育てていない家庭など、対応について二極化しているようだ。解決しなければならない。
・ＰＴＡなど、あらゆる機会に子どもに関わることをしてきたが、地域住民として宗像市に住んでいて良かったと子どもが思えるようにしたい。
・出産した時に北九州市に住んでいたが、赤ちゃんの駅があり、安心感があった。宗像市は、子どもを連れている時に声掛けがあって良いと思う。
・ふれあう機会、子どもに声を掛ける場合に子育て世代からも高齢者からも共にない。
・この７０年間の子どもに関する調査の結果で、６年生で睡眠時間が２時間減、遊びが２０分になり、お手伝いの時間は無くなり、一方メディアに関わる時間が増大している。これは危機的な状況にある。体験が大切である。

５．その他
・審議会委員に対する謝意（清水子どもグローバル人材育成担当部長から）